

平成20年度行政課題研究セミナー・1日自治大学校アンケート(自由記述より一部抜粋)

セミナー全体に関する感想・意見

県	特に若手職員にぜひ参加してもらいたいと思う。自治体職員にとって、地方自治全般に亘って考える機会が重要だと思う。
	地方自治体の職員が、今後、地方分権等に伴う種々な変化には、自治体のハードとソフトの両面での自立が不可欠と感じた。また、立場の違う講師の都道府県側と市町村側からの展開を対比できる構成が、興味深いものであった。
	本音の話を聞けたが、本音の議論、発言、発想も大事であると思った。
	現在の自治体職員に求められる能力は多方面、多様なものがある。もっと自らを磨くことが非常に重要であると、改めて認識させられる。「気づき」を多くもって帰りたいと思いました。
	本日のセミナーのように、著名な講師による研修を継続して開催されることを希望します。日本の今を動かしている講師の言葉は、非常に重く「考えること」「気づくこと」の重要性を再認識できた。
	一日自治大学校の取組みは、講師をかえながら、今後も続けていただきたい。
	自治大学校がやっていること、やろうとしていること、その背景にある現状と、もくろみの意図がよくわかるセミナーだった。それぞれの講演も刺激的で、大変参考になった。
	自治体職員としての考え方について、改めて考えることが出来た。考えたら実行(実践)する。は非常に良い言葉として気づいた。自治体とは研究するテーマが多いということも初めて知ることが出来た。
	新しい企画で大変有意義なものであった。今後も自治大教授を招へいし、セミナーを開催していただきたい。
	このレベルの講義のできる講師を呼んできて、2泊3日ぐらいのコースの研修があるといいです。

市町村等	高い視点からの行政自治体のあり方についてご意見を拝聴でき、自分自身に大変刺激になり有意義な時間を過ごすことができた。
	新人職員である私が、今後どう地方自治体の職員として、行政に携わっていくかという指針を見つけることができたセミナーだったと思います。又、分権時代の今後の展望を深く学べたことも有意義でした。
	小規模自治体にとって勇気をいただいた。
	自治大学校については、ほとんど認識がなかったので今回参加して知ることができてよかった。今後も継続し実施してもらいたい。
	権川校長、大森先生共に、地方自治に関するプロとして、具体的な内容も含め、すばらしい講義でした。「実践なき教育は悪」等々、再認識させていただきました。このような企画をもう少し増やしていただきますようお願い致します。
	基本としての自治体である市町村のあり方、持つべき役割についてはっきりした意見が聞け良かった。
	地方に居ながら、国の考え方を直接聞けたことは大変有意義でした。福島の研修体制が先進的であるとの学校長の話にあった通りの、セミナーであったと思いました。これからも、他県に先じて導入を進めてほしいです。
	今回のセミナーに関して、自分の能力以上の講義だったような気がしました。しかし1日自治大学校でなければ両講師の講義を受けることはできないので、非常に良かったと思います。また、講義の進め方も良く、時間がもう少しあった方が良かったと思います。
	1日自治大学校ということで、人材マネジメント等のありかたを学びたいと思い参加した。今後の職員としてのあり方や、自治体の方向性を学ぶことが出来、ある程度自分が何を目標にするか見えたので良かったと思う。
	分権時代における自治体の今後の行方。そのなかにおける自治体の人材育成のあり方と、密接に結び付いたテーマ同様のよいセミナーだったと思う。

自治大学校出前講義に関する感想・意見

県	<p>地方分権が進む中での自治体経営において、人材育成の重要性、特に時代が量的拡大から質の向上が要求される中で、地方公務員の能力向上が求められていることに気付かされた。</p>
	<p>自治大学校が担う役割と、自治体の職員の能力開発の関連性が良くわかった。あまり意識していなかったことではあるが、もっと自分の能力を伸ばしたい。環境が整うならば積極的に自治大学校、その他機関などを利用して多くを学びたい。自治体に必要とされる職員になりたいと改めて思いました。</p>
	<p>地方自治体の多くでは、まだまだ人材育成の重要性が十分に認識されておらず、地方間で格差が生じている実態を知り、また、今後必要となってくる「行政課題を科学的にデータ化し、政策立案につなげていく能力を持った人材の育成がおこなわれていることを認識し、早急に自治体は人材育成に力を入れていかなければならないと感じた。そのためには、人材育成プログラムの充実も重要であるが、職員が学び易い職場風土の構築が重要であることを認識し、非常に有意義な講義であった。</p>
	<p>地元県において、行政経営に関する最先端の講義を受講できるこの企画はすばらしい。今後も自治大学校の講師陣を招へいたこのようなセミナーの開催を希望します。</p>
	<p>国が自治体経営とそのリソースとしての人材の育成にどのようなスタンスなのか分かり非常に有意義であった。又、大学校の改革のビジョンについても評価できるといえる。併せて、国の地方支分局へのスタンス、人的リソース管理、特に地方と一体となった振興の視点への議論、言及を確認したかった。又、再度お時間をとって更に詳しい講義をお聞きしたい。あるいはワークショップ形式での再講義を検討していただきたい。</p>
	<p>市町村担当課職員の私にとっては、非常に考えさせられる話でした。市町村職員間、そして市町村間で人材育成に関する地域間格差が広がってきていることを実感しております。</p>
	<p>市町村の規模によっては、研修をうけさせることよりも業務こなすことを優先させ、必要な研修を受けづらい状況であることは聞いていたが、今日の講義を聞き、自治体経営のために人材を育成する視点が今必要となっていることが良く分かった。</p>
	<p>自治体にとって経営のスリム化が求められているが、そのためにも、人材を育てることが重要だということがわかり、大変有意義であった。機会があれば、自治大学研修に参加してみたい。</p>
<p>自治大学校のカリキュラムの充実ぶりや校長がいかにも努力をされているかについて知り、タメになった。3週間の研修の講師陣は皆一流の方で、私も名前を聞いたことがある方がいるが(私も含めて)その価値に気づく人が増えれば、申し込みも増えるのではないかと思った。</p>	
<p>地方分権を唱えながら、地方分権を支える地方公務員の研修について、総務省、自治大学校(中央政府)が関与しなければならない現状に疑問を感じている。質、量の面では不十分かもしれないが、ドイツのような自治体、特に市町村主導の研修の仕組みを構築し、自治大学校もドイツにおける行政大学校のようなより中立性の高い教育機関として再編することも必要と思われる。</p>	

市町村等	<p>常に意識の改革と実践の必要性と総合的な積極性によりモチベーションを高めていくことが、必要であることを気づかされた。今後自治大学の研修内容を検討し参加をしていくことにしたい。</p>
	<p>人材育成の重要性を再認識させられました。若い世代に研修の機会を与えたいと思いました。</p>
	<p>自治大学のPRを兼ねた講義であったと思うが？最後のお話の中で自治大学校の第1期応募状況で市町村は68名の応募となっていたが、それを少ないと感じるのは各自治体の首長であると思える。首長が熱心であれば人材育成にもつながる。</p>
	<p>今後、分権改革が進むにつれ、市町村の格差がますます拡大すると思います。その中で、財源が乏しい町村は研修に予算を回せない状況にあります。将来の町づくりのために人材育成はかせないものと感じました。</p>
	<p>自治大学への積極的な入校は、非常に大切なことであることは勿論理解するが、地方の小さな町村としては、人員の問題と財政的な問題があり、現状では無理であり、今日の様な出前講義に参加することが望ましいと思う。</p>
	<p>実践無き理念は悪、これからの自治体職員はいかに企画立案能力を高めていくか。そのためには、いかに自らを高める事のできる風土を醸成していけるか、さらにそれを実践していけるかが重要だと感じました。</p>
	<p>地方自治体における人材育成の重要性、必然性について理解を深めることができた。自治大への職員派遣については、職員誰もが行けるものではないので講義内容のエッセンスだけでも、今回のような機会でも、できるだけ広く提供してもらえればありがたい。</p>
	<p>人材育成の重要性を改めて認識させていただきました。今後も首長等への人材育成についてのPRを積極的に行っていたいただければと切に思います。</p>
	<p>自治大学校経験者として、自分の受講していた時代と現在の自治大の現状を比較しながら聴くことができ、何が大切かが(…これからの人材育成にとって)なんとなくイメージすることができた。</p>
<p>各都道府県や市町村間で、自治大学に入校する割合が全然違う事に非常に驚いた。日進日歩で変化している状況の中で、自分自身も勉強しなければならないと思う。自治大学という言葉は聞いたことはあったが、今回内容も知れて機会があれば自分も入学してみたいと思った。</p>	

基調講演に関する感想・意見

県	地方分権に関して委員会での話を事例に、都道府県、市町村の今後の方向性とあり方について非常に参考となった。
	県職員として、国と都道府県と市町村との関係性において、それぞれの役割をどのように果たしていくべきか、また、道州制議論の危うさと、これからの地方自治体のあり方を考え直させられた。
	分権改革における、「国、都道府県、市町村」の関係のあり方について、よく理解できる講演であり、非常に参考になり、考えさせられる内容であった。今後の道州制の議論等についても、十分留意していく必要がある。
	漠然としかわからないできた道州制について、その弱点、論点が明確になり良かった。単なる財政再建のための制度づくりならば、結局は地域のためにならない。もっと事例など聴ける機会があると良い。
	現在の地方自治体をとりまく厳しい状況を改めて認識し、自分に何が出来るのか。何をしなければならぬのか、改めて自分を見つめ直す良い機会となった。「今のように物を感じ、物を考え、行動している自分は、自治体の職員としてまっとうな職員なのか自分に問いかけてよ!!」という言葉をかみしめて、職務に向き合っていきたいと思う。
	非常に有意義であった。試されている「志、意欲、能力」～全て一人一人の自分の問題である。自らの学んで行動することに他ならないことを教えられました。
	これからの地方自治のあり方について、違った視点、疑問を持った視点からの講師は初めて受講することが出来た事は非常に有意義であった。これからも機会があった場合に再度、大森先生の講話を受講したい。
	第29次地方制度調査会の方向性など、通常勤務していたり新聞だけでは分からないことを聞くことができ、大変有意義であった。
	軽妙な語り口が聞きやすかった。内容は大学の講義に似ているものでありながら、それ以上に多岐にわたる話であり、各所に批判もちりばめられた話は、自分の価値判断形成の上でも非常に勉強になった。
	住民、市町村を軸にすえた議論は理解しやすく、説得力がある。都道府県と市町村が国ではなく地域を動かすことにより、現自治制度下でもよりよい自治が実現できると信ずる。国ではなく、市町村、住民に必要とされる都道府県でありたい。

市町村等	有意義な講演を拝聴することができ、今回の研修セミナーに参加させてもらい大変良かったと思っています。地方分権に関する話については改めて知った事などもあり、多いに参考になりました。
	この国のあり様、形を決めるかもしれない中枢に、触れることが出来る人の話を聴くのは大変有意義であります。
	危機感が高まりましたが、私にとっては新しいお話で大変勉強になりました。自治権限にとっては職員能力を考えても難しく悩ましいと不安になってしまいましたが、行政の専門性については自分問題な事は否めないで、努力しなくてはと思います。自治体職員として住民にも自治意識を持って頂くような手だても学びたいです。
	議会に対する考えは、当然でありながら、重要な視点であると感じます。議会が最高の機能を発揮すれば、各審議会等は必要ないものと思います。戦後の地方自治の流れを解説しながら現在の問題点を指摘されている内容は大変勉強になりました。最後に語られていた、「今のように感じ、考え、行動している自治体職員か？」の問いかけを自分自身に言い続けていきます。
	ユーモアある話で、国のコントロールからいかに離れ、自治体でものを考えていけるか。地方自治体を取り巻く状況が激的に変わっていくのを感じ、本当の地方自治を考える良い機会となりました。
	大森先生の元気な様子がみれてよかったです。国の道州制の導入のねらい、制度に対する考え方について、先生ならではの批判口調で語るなかに、自治体職員はこれからどのように考え、どう行動するかを促す目的がひしひしと伝わり、素晴らしい講演でした。
	人材ではなく人財。研修の重要性を改めて認識させられた。1部同様、目からウロコの内容であった。
	国で進められている、分権審議の考え方や基本スタンス、といったものを分かりやすく説明いただけだったので、法令として出される内容の行間を読みとりやすくなると思う。
	分権時代に求められる職員の志について、エールをいただいた。
	分権時代で自治体が自立していくためには、執行機関だけではなく議会のあり方も考えていかなければならない。今回はその部分でも先生のお話しが聞けたので大変貴重だった。